

資料館だより

第 26 号

平成 9 年 (1 9 9 7)
3 月 15 日

編集・発行 武蔵村山市立歴史民俗資料館 〒208武蔵村山市本町 5 - 21 - 1 T E L 0425(60)6620



中期・^{あたまだい}阿玉台Ⅲ式
^{やしきやま}屋敷山遺跡
残存高25.0cm



中期・^{かつさか}勝坂Ⅱ式
屋敷山遺跡
高31.9cm



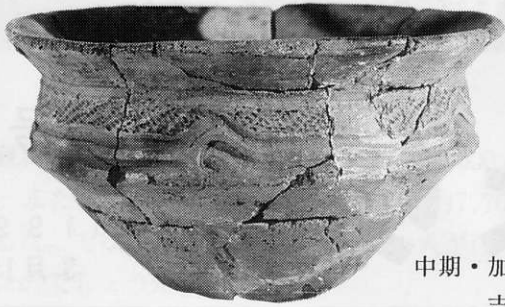
中期・勝坂Ⅲ式
屋敷山遺跡
高27.5cm(口縁まで)



中期・^{かそり}加曾利EⅠ式
^{きちじょうやま}吉祥山遺跡
残存高15.0cm

特別展「武蔵村山市の縄文土器」

期間 平成 9 年 (1 9 9 7) 3 月 2 3 日 (日) ~ 5 月 1 8 日 (日)



中期・加曾利 E I 式
吉祥山遺跡
高12.0cm



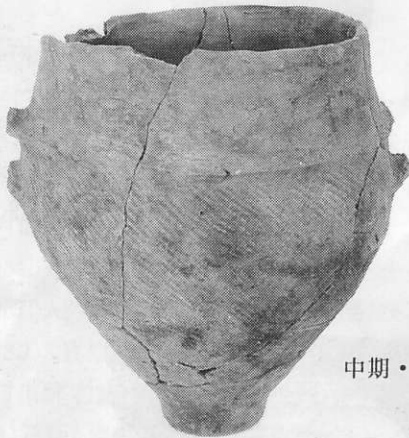
中期・^{れんこもん}連弧文(加曾利E I式併行)
吉祥山遺跡
高38.5cm



中期・^{そり}曾利 II 式
屋敷山遺跡
残存高24.5cm



中期・
曾利 II 式
屋敷山遺跡
残存高14.3cm



中期・加曾利 E IV 式
野山第5遺跡
高30.4cm



後期・^{なかいひがし}高井東式(曾谷式併行)
吉祥山遺跡
高37.0cm



後期・高井東式(曾谷式併行)
吉祥山遺跡
高23.0cm(口縁まで)



後期・^{しんち}新地式(安行II式併行)
吉祥山遺跡
残存高18.0cm

後ヶ谷戸遺跡発掘調査の概要

後ヶ谷戸遺跡調査会 高橋 学

現在、岸3丁目^{きし}で後ヶ谷戸遺跡の発掘調査を行っています。この調査は市立総合体育館の建設のための事前調査^{じぜんちようさ}で、^{かく}昨年^{かく}の8月から12月まで確認^{にん}（分布）調査を行い、1月から引きつづき、本調査を実施しています。

後ヶ谷戸遺跡は、狭山丘陵^{さやまきゅうりゅう}を開析する谷の低湿地部^{ていしつちぶ}にあり、縄文時代から江戸時代までの遺構・遺物が発見されています。ここでは、その主なものを紹介します。

縄文時代では、2地区から集石遺構^{しゅうせきいこう}が発見されています。集石遺構とは、火を受け赤くなった石が集まった状態の施設^{しせつ}です。こうした焼石^{やけいし}を使い、肉や魚、植物質^{しよくぶつしつ}の食品を蒸し焼き料理にした跡であろうと考えられています。

弥生時代後期^{やよいしだいこうき}（約1,700年前）から古墳時代^{こふんじだい}

中期^{ちゅうき}（約1,500年前）では、当時の川跡が発見されています。その中から多量の流木^{りゅうぼく}に混じって、3点の建設用木材が出土しています。木材は、長さ1m以上の柱材と、柱に対して横方向に架ける横架材^{おうかざい}と、長さ1m30cm、幅20cmの板材です。その中でも板材はほぞ状の木組み構造^{きぐまこうぞう}を持ち、高床式建物の壁材^{たかゆかしきたてものかべざい}と推定されています。この板材には両面に溝状の切り込みがあり、二次利用^{にじりよう}されていたと考えられます。これらの木材は台地上の遺跡では腐触^{ふしよく}してしまうので、とても貴重な資料といえることができます。

なお、木材に関しては、東京都立大学の山田昌久先生に御教示をいただきました。厚く御礼申し上げます。



流路（川）跡出土の加工木材（樹種はアサダ）

弥生時代後期～古墳時代中期

江戸時代の人口

武蔵村山市の人口は、平成8年末で約67,000人です。また、村山村となった大正6年は約7,700人でした。では、江戸時代にはどれ位の人が住んでいたのでしょうか。

江戸時代の人口を記録したものには、宗門人別改帳・村高家数人別書上帳・家数人別増減書上帳・村明細帳などがあります。また、救助銭上納高調などのように必要に応じて記載したものもありますし、五人組帳・村中惣組頭百姓判鑑改帳・法度書連印帳などのように軒数を教えてくれる文書もあります。

しかし、江戸時代といっても260年余りもありますし、前回述べたように支配が7つに分かれていることから、その正確な人口を把握することは極めて困難です。そこで、概数の推計という程度になりますが、江戸時代末に焦点を当てて調べてみましょう。

1. 中藤村源蔵組

寛政11年(1799)人別帳	107軒	500人(男264・女236)
弘化4年(1847)人別帳	103軒	550人(男289・女261)
明治3年(1870)人別帳	108軒	697人(男343・女354)

2. 中藤村佐兵衛組

天保14年(1843)人別帳	79軒	418人(男212・女206)
嘉永5年(1852)人別帳	80軒	454人(男240・女214)
明治4年(1871)戸数人員惣寄帳	94軒	545人(男255・女290)

3. 中藤村市郎右衛門組

明和8年(1771)人別帳	167軒	783人(男419・女364)
万延元年(1860)増減帳	154軒	862人(男415・女447)
慶應2年(1866)増減帳	154軒	921人(男439・女482)

4. 中藤村全体

明治12年(1879)本籍人員取調394軒2,528人(男1,224・女1,304)

中藤村各組と上記の数字により、江戸時代末は家数350軒・人数2,150人位ではなかったかと推定されます。

5. 横田村

横田村には、現存している文書が少なく、人口を記録したものが見当たらないので、家数から換算してみました。

正徳元年(1711)反別指出シ帳 家数28軒

新編武蔵風土記稿(文政期) 家数33軒

武蔵野歴史地理(高橋源一郎著・大正期～昭和3年) 文政期33軒・天保期32軒

そこで、江戸時代末の家数を35軒としますと、

市文化財保護審議会委員 寺町 勳

人数は約210人ではなかったかと推定されます。

6. 三ツ木村御料

天保11年(1840)人別帳	95軒	453人(男225・女228)
明治2年(1869)人別帳	97軒	576人(男293・女283)
明治5年(1872)壬申戸籍	99軒	558人(男295・女263)

7. 三ツ木村私領

三ツ木村大河内領については、人口を記録した文書が見当たらないので、家数から換算しました。

元禄3年(1690)五人組帳 家数60軒

江戸時代末の家数を65軒としますと、人数は約390人となります。

8. 三ツ木村全体

子年(嘉永5か元治元)家数人別書上帳 161軒 952人(男489・女463)

このことから、江戸時代末の人口を家数160軒・人数960人位ではないかと推定しました。

9. 岸村

宝暦7年(1757)人別帳	69軒	342人(男177・女165)
寛政11年(1799)人別帳	76軒	366人(男199・女167)
明治3年(1870)人別帳	69軒	448人(男228・女220)

岸村には多数の宗門人別改帳が残っていますので、人口の把握はかなり容易です。江戸時代末は、家数70軒・人数430人となりました。

10. 武蔵村山市域全体

以上のことから、市域全体の江戸時代末の推計を次のようにしました。

中藤村	家数350軒	人数2,150人
横田村	35 "	210 "
三ツ木村	160 "	960 "
岸村	70 "	430 "
計	615 "	3,750 "

11. あとがき

江戸時代末の本市域の人口を約3,750人としたが、その作業の途中で(1)家数は横ばいか微増、(2)人口は漸増、(3)1軒あたりの住人数は約6人、(4)他村よりの奉公人が意外に多い年があることなどに気がつきました。

ところで、北多摩郡誌によりますと、明治44年は、中藤村(横田村合併後)721軒・4,596人、三ツ木村302軒・1,920人、岸村111軒・722人、計1,134軒・7,238人ですから、明治期になって家数・人数共に急増したことになります。

(表中の人別帳は宗門人別改帳、増減帳は家数人別増減書上帳のことです。)